

CONTENTS

ごあいさつ	1
活動TOPICS	2
活動報告	4
省エネ生活	6
地域便り	7
お知らせ・編集後記	8

21世紀の エネルギーを 考える会・みえ



ご あ い さ つ



会長 小菅 弘正

平成8年に発足以来、会員の皆さまには、さまざまな事業や活動においてご協力・ご協賛を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、私たちの国民生活や経済活動は、大量のエネルギー資源によって支えられています。その資源は、石油、石炭、天然ガスなどの化石資源や、原子力発電

の燃料となるウランなど、日本で供給されるエネルギーの約96%を海外からの輸入に依存しています。

平成21年度を振り返ってみますと、鳩山新政権が発足し、9月には日本の目標として、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減することを表明しました。また、12月にはCOP15において「コペンハーゲン合意」が承認されるなど、地球温暖化防止への取り組みは世界的規模で進んでいます。化石資源への依存を抑え、太陽光、風力、水力、バイオマス、原子力など二酸化炭素を排出しない電源の積極的な利用を推進し、「低炭素社会」の実現に向けた取り組みが急務となっています。

昨年12月には、九州電力(株)玄海原子力発電所3号機で国内初、本年3月には四国電力(株)伊方発電所で2例目となるプルサーマル発電の営業運転が開始されました。プルサーマルでは、使用済燃料を再処理し、回収されたプルトニウムとウラン等の有効利用が図れます。資源小国日本にとって、エネルギー政策の重要な柱として期待されます。

こうした状況をふまえ、当会は、活動理念に基づき、「環境との調和を図ったエネルギーの確保」等による「低炭素社会の実現」に向け、正しい理解層の拡大を図るべく、活動してまいります。

今後とも会員の皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

三重県新生活運動推進協議会(伊藤幸子会長)主催の 平成21年度省資源・省エネルギー大会に協賛

服部事務局長が挨拶



■挨拶する服部事務局長

平成22年2月16日(火)、津市ポルタ久居3階の市民ふれあいセンターにおいて、「平成21年度省資源・省エネルギー大会」が開催され、県内各地の生活学校から約50名が参加しました。

この大会は、毎年2月の省エネルギー月間に合わせて実施しているもので、生活者の立場から、省資源・省エネルギーを考えるとという趣旨に賛同し、当会は毎年協賛しています。

今回は「『ストップ ザ・温暖化』“みんなで減らそうCO₂”」をテーマに、パネルディスカッションや講演が行われました。

まず始めに、伊藤会長が「現

在の地球は、温暖化がますます進み、生態系も崩れてきています。京都議定書発効後、CO₂削減に取り組んできたつもりですが、逆に増えてきているのが現状です。新内閣が掲げた25%削減という目標に向けて、私たち主婦がどのように生活するのがいいのか、考える機会にしたいと思います。」と開会挨拶が行われました。

続いて当会の服部事務局長が「地球温暖化は、今や世界的に深刻な問題として取り上げられていますが、現実に私たちは、それぞれの立場で対策を講じているのでしょうか。この大会等を通じて知識を身に付け、危機感を持って行動することで、真の温暖化防止対策が実践されていくものと思われれます。」と挨拶しました。



■挨拶する伊藤会長

新エネルギーを考える パネルディスカッション



■ディスカッションで発言する藤岡理事長

「新エネルギーについて」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、伊藤会長の司会で進められ、NPO法人市民風車夢の会理事長・藤岡和美氏、三重県新生活運動推進協議会顧問・佐脇芳子氏、当会の服部事務局長が参加し、議論されました。

佐脇顧問は生活者の立場から、「新エネルギーとして風力発電や太陽光発電は何がいいのですか。」と疑問点を呈し、藤岡氏は資源として利用されている風力発電のほか、太陽光、原子力などCO₂を出さないエネルギー資源の利点を挙げ、「安定、安全、安心、安価というのがエネルギー提供の4条件。持続可能な



■パネルディスカッションの様子

直接エネルギーを減らす方法として、「スイッチをこまめに切って電気やガスの消費量を減らす」「家電や電球型蛍光灯など省エネ製品を購入して使う」「間接エネルギーを減らす方法として、不要なものや余分なものを購入しない」「買ったものは大事に使う」ことなどを勧められました。また、暮らしの中の温室効果ガス排出量を計算できる「エコット家計簿」を提案され、参加者のみなさんは関心を示していました。

また、会場内にはリフォーム作品が展示され、リサイクルバザーも行われました。

エネルギー資源を利用することは大変重要です。行政は課題を可視化して、具体的に対策を講じてほしい。」と要望しました。服部事務局長は、当会の活動を紹介しながら、「世界的な温暖化に危機感を抱いています。日本はエネルギー自給率をあげるため、問題を先送りせずに、今できることを始めるべきです。」と述べました。伊藤会長は「(生活者としても)やっているつもりでも実際にできていないことが多い。実行することが大事です。」と締めくくられました。

どうすればエコな暮らし?」と題して、エネルギー・環境問題に対する具体的な対策として、脱化石燃料、化石燃料利用効率改善、省エネ推進の3つが提示されました。

家庭でできる省エネも紹介し、



■熱心に講演を聞く参加者

家庭でできる 省エネを紹介

午前中に行われた講演会では、(財)電力中央研究所研究顧問で工学博士の中岡章氏が「何を



■講演する中岡研究顧問

見学会

■八千代台一丁目自治会 見学会に協賛

平成21年11月26日(木)、四日市・八千代台一丁目自治会員36名による中部電力(株)碧南火力発電所・へきななんとトピア、名古屋港ワイルドフラワーガーデン“ブルーボネット”の見学会が行われました。

碧南火力発電所では、日ごろ私たちが利用している電気がどのように作られているのか、発電のしくみや環境への取組みについて学んでいただきました。

ブルーボネットは、新名古屋火力発電所の緑地の一部を「自然風庭園」として整備した地域共生施設で、美しい緑や草花などを楽しんでいただきました。

電力会社のエネルギー・環境問題に対する取組みを身近なものとして、参加者一人ひとりが見て、聞いて、学ぶことができた見学会でありました。



研修会

■役員懇話会開催

当会役員のエネルギー・環境問題に対する更なる知識向上を図るため、平成21年度から役員懇話会を開催しました。

第1回は、平成21年12月14日(月)、ホテルグリーンパーク津で、当会役員・運営幹事はじめ37名が出席し、小菅会長の挨拶の後、都市環境ゼミナール会長・愛知県地球温暖化防止活動推進センター長で当会理事でもある伊藤達雄氏を講師に迎え、「気候変動とエネルギー」について考える研修会を行いました。

伊藤氏は、地球の自然環境は、さまざまな生命体・岩石・海洋・大気に関連し合い、進化する自己調節システムを構成しているという「ガイア思想」を紹介し、地球環境はすでに危機に直面している現状を説明しました。また、顕著な気候の変化や海面温度の上昇等の例を挙げながら、地球温暖化の原因と、それが与える深刻な影響を解説しました。エネルギー源については、化石燃料から風力・太陽光・バイオマス等の再生可能エネルギーおよび原子力エネルギーへの転換が直ちに必要であると訴えました。

第2回は、平成22年3月1日(月)、ホテルグリーンパーク津で、46名が出席し、中部電力(株)代表取締役副社長執行役員の宮池克人氏を講師に迎え、「電力会社における環境への取り組み～低炭素社会へ向けて～」をテーマに、懇話会を行いました。

宮池氏は、地球温暖化防止に対する海外の動向や国内政策の最新情報を紹介しました。また、中部電力管内で推進されている風力・太陽光発電の推進状況や原子力発電の課題、安定供給確保(Energy security)、環境保全(Environmental conservation)、経済性(Economic growth)の3つのEを達成するための取り組みを説明しました。

参加した役員も、改めて地球温暖化防止の必要性や低炭素社会実現の重要性、当会の課題、役割について考える機会となりました。



講演会

■三重県商工会連合会大会への協賛

平成21年10月28日(水)、三重県文化会館で三重県商工会連合会大会が開催されました。

大会には約600名が参加され、当会協賛の記念講演会は、エネルギー・環境問題への理解を図るため、(財)電力中央研究所の研究顧問で工学博士の中岡章氏が「地球温暖化の解決のためには」と題して講演いただきました。中岡氏は、現在の日本や世界のエネルギー事情を平易なことばでわかりやすく解説し、地球温暖化を防止するために私たち一人ひとりが個人でできる取り組みとして「エコット家計簿」などを提案しました。



■平成21年度四日市商工会議所 優良勤労者表彰式への協賛

平成21年11月20日(金)、四日市商工会議所で平成21年度四日市商工会議所優良勤労者表彰式が開催されました。

式典には約300名が参加され、当会協賛の記念講演会は、元マラソン選手の千葉真子氏が「命を輝かす人間」と題して講演いただきました。

当日は服部事務局長が来賓として挨拶し、会員の方々へ当会のPRを行いました。

■津北商工会新春講演会への参画

平成22年1月16日(土)、河芸会館で津北商工会新春講演会が開催されました。

当日は、石垣英一財団法人三重県産業支援センター理事長が「新成長戦略(基本方針)～輝きのある日本へ～」と題した基調講演を行いました。日本の強みを活かした成長として環境・エネルギー産業を挙げ、主な施策として固定価格買取制度拡充による再生可能エネルギー拡大支援、住宅・オフィス等のゼロエミッション化などを紹介しました。

また、当会パンフレットを参加者に配布し、当会の活動に理解を求めました。



はじめよう！日常生活でできる省エネ

照明器具のかしこい使い方・選び方

低炭素社会とは、温室効果ガス(主にCO₂)の排出量を削減することによって気候が安定し、そのもとで築かれる、持続可能で豊かな社会のことで、その実現は、地球に暮らす私たちに安心・快適・豊かさをもたらします。

次世代に引き継ぐ“未来の地球づくり”を進めるために、今、私たちが日常生活で身近にはじめられる省エネを今号からシリーズで紹介します。

今回は、照明器具のかしこい使い方です。

使い方

無駄な明かりは
こまめに
消しましょう。

誰もいない部屋、長時間不在にする時に電気をつけっぱなしに
していませんか。
ただし、あまり頻繁に点滅させるとランプの寿命が短くなります。

点灯時間を1日1時間短縮するとこんなにおトク

54Wの白熱電球1灯

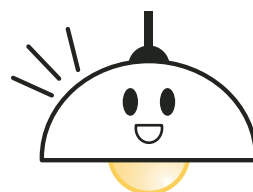
年間で電気 約20kWh

電気料金：約450円の節約

12Wの電球型蛍光ランプ1灯

年間で電気 約4kWh

電気料金：約90円の節約



※ほぼ同じ明るさ

●壁スイッチで電源を切りましょう。

リモコン機能の使用時には、約1Wの電力を消費しています。壁スイッチの電源をオフにしましょう。

●こまめに掃除しましょう。

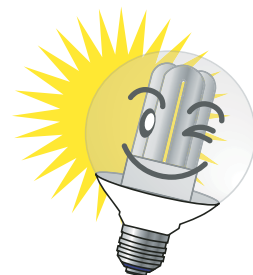
ランプや傘が汚れると、明るさが低下します。汚れやすい部屋は定期的に手入れをしましょう。

選び方

●電球型蛍光ランプに取り替えましょう。

電球型蛍光ランプは寿命が6倍、電気代が4分の1以下なので、購入価格は高めですが、結局おトクになります。

	12Wの電球型蛍光ランプ	54Wの白熱電球
寿命	6,000時間	1,000時間
電気代	1,621円	7,296円
購入価格	1,500円	900円



●用途によって選びましょう。

部屋の広さに応じた、エネルギー消費効率が高いインバータ式器具がオススメ。また、1Wでどれだけの明るさかわかる「エネルギー消費効率」の値が大きいものを選ぶと省エネ性が高くなります。

※電力単価は22.52円/kWhで計算

津市

風車のある景色

津市と伊賀市にまたがる青山高原は国内有数の風力発電地帯となっています。山々に映える風車は、景観に調和したデザインで、春はツツジ、秋はススキと四季折々のすばらしい景色を楽しむことができます。

2月には「ウインドパーク笠取」の風車10基が営業運転を開始しました。「ウインドパーク美里」の8基、津市(旧久居市)の4

基、「青山高原ウインドファーム」の20基を合わせると、計42基が運転しており、発電規模は54,000kWとなっています。

笠取山の地名は、かぶっている笠も取れてしまうくらいの風が吹くということから名づけられたようで、まさに風力発電には最適の地です。津市に吹き続ける風が、地球環境に貢献しているのです。



■青山高原ウインドファーム

ご当地グルメ紹介

“うまい”だけでなく“安い”という津市の「うなぎ」と、イベントでは完売続出、巷で大人気の「津ぎょうざ」。津に来たなら一度は食べてみる価値あります！

■うなぎ

津市は1人当たりのうなぎの年間消費量が日本一。(平成17年度総務省家計調査)



江戸時代に藤堂藩が藩士の滋養強壮と士気向上のために、うなぎを食することを奨励したのが始まりだといわれています。

市内では腹側から裂き、タレを付けて直接炭火で焼き上げる関西風の食べ方ですが、それぞれの店で味付けが違うため、お好みの味を探す楽しみもあります。

■津ぎょうざ

津ぎょうざとは、直径15cmの大きな皮で餡を包み、油で揚げた大きな揚げぎょうざです。

津市(旧津市)教育委員会の栄養士が学校給食のメニューとして考案したのが始まりで、

現在は、市内外の29店舗(催事販売など3店舗を含む)の飲食店でメニュー化されています。

津ぎょうざの定義は①直径15cmの皮を使用、②揚げ餃子であること、の2つですが、中身の具は自由なので、各店オリジナルの津ぎょうざを楽しむことができます。



[出典]2009津花火特集号(伊勢新聞)

お知らせ・会員の募集・編集後記

お知らせ

平成22年度総会のお知らせ

日時：平成22年6月8日(火) 13:00～15:45 (予定)

会場：アスト津4F [アストホール]

会員の募集

当会では、会員の募集を行っています。

21世紀におけるエネルギー・環境問題を共に考え、行動する人の「輪」を広げています。

当会にご関心をお持ちの未入会の企業、団体、一般の方に一声お掛けいただきますよう、お願いいたします。

お詫び

会報誌第27号2頁の青山伸治経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部電源開発調整官の写真が間違っておりました。関係者の方々にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

編集後記



事務局長
服部 勝

平成21年度の活動を振り返って

今号は、平成21年度に県内各地で行われた活動報告を中心に編集いたしました。

実際に参加された方からは、「環境やエネルギー問題について考えるきっかけとなった」「省エネの知識が役立った」などのご意見をいただき、みなさまの学習や実践のきっかけとなったのではないかと感じています。

今後も、一人でも多くの方々に当会の活動にご参加いただくため、積極的な活動を行ってまいりますので、より一層のご

支援、ご協力をよろしくお願いたします。

また、平成22年度総会は、6月8日(火)に開催を予定しています。是非、ご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

最後に、当会の活動に関する会員のみなさまのご意見、ご感想を受付けています。いただいたご意見、ご感想は、今後の活動の参考とさせていただきますので、ぜひ事務局までお寄せください。

COVER Photo



伊賀上野城
(伊賀市上野丸之内)

白亜三層の伊賀上野城は、藤堂高虎により築城され、現在は当時の内堀と高さ30mもの急峻な石垣、昭和10年に建てられた天守閣が残っている。上野公園は、春には約800本のソメイヨシノが咲き、城は霞がかかったように美しく、毎年人々の目を楽しませている。

シンボルマーク



「みえ」のイニシャル「M」と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな「M」で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

お問い合わせ先(事務局)

〒514-0004
津市栄町3丁目248番地
きりんセカンドビル302号
TEL&FAX(059)229-3790